

3443 富士有情：状況と心模様②

やがて、乗船。ゆっくりと岸壁を離れるフェリー。港を離れる客船や波止場の光景、
船旅は、旅情そのもの。夢とロマン。キーワードは、
好奇心と感動を求めた感性の旅。頭や知、情報発信の取材ではない。

感動や心が求めたものを追求する芸術志向。乗船前の何でもない道の風景、心に残った。
甲板での静寂の時間が影響したのか、今回は、ホームシックではないが、
郷愁が、少し勝った。そんな心理状態の中、
フェリーは、ニュージーランドの首府、北島、ウエリントンに着いた。
船上でも感じたが、風が強いように感じた。



北島での新たな旅のスタート。行ける所まで行く。最北端のレインガ岬。
今夜と明日1日は街を散策、英気を養う。タラナキ山の周遊やトレッキングは予定していた。
そして、翌々日、タラナキ山に会いに行くことにした。
気分的にほっこり、心の余裕があった。心の有り様で、感じ方も変わる。
眼前に広がる光景、突然、様々の郷愁が胸に。

十年座住した鎌倉禅寺円覚寺、境内の高台、国宝の洪鐘おおがねのある茶店から
快晴や冬場には、富士山が見られる。毎朝、日課の時もあった。京都生まれの京育ち、
なぜか、富士山には心惹かれる。大好きと一言では言えないほど大好き。

107箇所の撮影ポイントがあるという。作品は少ないが周遊を何度も、富士山の山頂も踏破。箱根路、乙女峠からの雄大な富士山が大好きである。汗を流し、頂上まで登りきる。そして、眼前に広がる雲海や光景。

いつも素晴らしいとは限らないが…

タラナキ山は、エグモンド国立公園。チャレンジを開始。朝駆け、頂上をめざした。

富士山一周ならぬ周遊もし、いろいろな視点から、心に刻みつける。

感動をフィルムとして残す。「富士有情」は、作品の一つ。産経新聞に掲載させてもらった。

この時のことが思い浮かぶ。時空も超越して夢中になることが多い。

登山やトレッキングの時、呪文を唱えることが多い。

「^{かたつむり}蝸牛、登らば登れ 富士の山」 今一つは、「頂上を忘れて登る、富士の山」

ニュージーランドは、危険動物も少ない。治安も良い方である。

シダの林の中を美味しい空気を吸いながら頂上へ。心も解放されている。一期一会の出会い。

感動との遭遇。この瞬間があるから、旅は楽しく、私の仕事は面白い。

この地方は、日付変更線に近く、世界一、朝が早い。眼前のこの光景だけではない。

早朝大好き人間の私には、興味津々。堪能したのは言うまでもない。

タラナキ山の標高は、2517メートルと高くない。東斜面は、6月から9月、スキーができる。

西側は、海との間に遮るものがない。風の強い地域。

気象変化も激しく遭難者も多いらしい。穏やかな山に見えるのだが…

なぜか、異国だが、親しみを感じる光景。異郷であって異郷でないような感じ。

後日談だが、映画「ラストサムライ」俳優の渡辺謙とトムクルーズ主演の撮影はタラナキ山。

映画も鑑賞。ますます、思い出に残ることになった。

ニュージーランド、縦断の旅、北島、ウエリントンから、最北端のレインガ岬をめざす。

タラナキ山でのひと時、充電とともに、元気をもらった。

カウントダウンは4回体験。2018年フランス・パリは2度目。

ミレニアムのカウントダウンは、北島、オークランドだった。作品が多く残っている。

次の産経新聞「地球のかおり」は、中国・黄山のカウントダウンから…